



国連事務総長より平和市長会議総会に宛てたメッセージ
2013年8月3日（広島）

本日私たちは、1945年に広島と長崎の人々が体験した恐怖に再び思いを寄せています。両市への原爆投下は、核兵器が人類に対する究極の破壊兵器であり、無差別兵器であることをまざまざと見せつけました。3年前に広島と長崎を訪れ、あの悲惨な出来事の貴重な語り部である被爆者の皆さんの生の声に耳を傾ける機会を得たことは、私にとって忘れ難い体験でした。

核兵器のない世界を実現するために、私はこれから先も最大限の努力を続けてゆく所存であり、その一環として核軍縮と核不拡散に関する5項目の提案を行いました。この提案の中で私は、検証を伴う核兵器禁止条約の交渉、または相互に補強し合う個別の条約の枠組みを求めています。

また、核兵器の大幅削減、安全保障、透明性と説明責任の向上を求めるとともに、ミサイル、通常兵器、宇宙兵器、ならびに大量破壊兵器を用いたテロリズムなど、関連する懸念事項への対応を呼び掛けています。

世界各地で、政府と市民社会は、グローバルな議論の場で核軍縮の優先順位を上げるという共通の目標に向けて共に取組を進めてきた。そしてこの高邁な理念の最前線で活躍してきたのが平和市長会議です。

平和市長会議は1982年の創設以来、世界の都市間の連携を強化し、核兵器廃絶に対する意識の向上を図るとともに、恒久平和を実現するために活動を続けてきました。その献身的努力と指導力に深く敬意を表します。

2020ビジョンキャンペーンをはじめとする、平和市長会議のすべての取組において、皆さんの努力が実を結ぶことをお祈りします。国連はグローバルレベルで核軍縮を進めるための拠点として、また共に平和の実現を目指すパートナーとして今後も皆さんと共にありたいと思います。